

Ref. No. #1450

辯護手続、一四五〇號

「一九四六年三月二十八日ドイツ、ニュールンベルグに於けるポール・シユミット
博士の訊問書よりの抜萃」

適當に宣誓した後證人は次の如く證言した

問 一九三九年九月三日の朝貴方はドイツ政府宛の英國の最終通牒を

受取りましたか？

答 ハイ、確にさうです。

問 貴方は誰にその最後通牒を渡しましたか？

答 三日の朝二時か三時頃私が若し官舎がみつたら出席出来るやうに
と外務大臣と共に行かうとして居たヒツトラー總統の許へ英領大
使がら電話があり、英國大使は本國政府より訓令を受け、それに
従ひ午前九時カツキリに、英國政府を代表してドイツ外務大臣に
對して重要聲明をなさねばならぬであらう、といふ訓令を受けま
した。それ故英國大使は其の時リッペントロップに會見してくれ

File No # 1450

答 問

る様事だったのであります。

リッベントロップ彼自身は都合が悪いが外務省の一名、此の場合には私が代表として英蘭政府の承諾を英蘭大使の手を経て受取すべき書類を呉へられるだらうといふ返答を英蘭大使は受けたのであります。かういふ次第で私は朝の九時にリッベントロップの書室で英蘭大使と會見することになつたのであります。

私が説明けるやう勸誘したがヘンダーソンはそれを断り、そして立つたままドイツ政府の英蘭政府の有名な最後通牒を私に對して朗讀しました。それに依ると若し或る條件がドイツ側に於て受け容れられないならば英蘭政府はその朝の十一時にドイツと戦闘状態にあるものと見做すであらうといふ事でありました。私達は二、三の別々の言葉を交した後、私はその文書をとつて總統本部へ行きました。

そして總統本部でその文書を誰に渡しましたか？

私はそれをヒットラーに渡しました、即ち私は彼の書室で外務

大臣と會談中の彼を見付け、そして私はその文書を彼の爲にドイツ語に翻譯しました。翻譯し終つた時、最初は沈黙が續きました。問ヒットラーはその室にたつた一人で居りましたか？

答 いゝえ、前に云つた様に、彼は外務大臣と共に立ち乍ら彼の室に居りました。

そして、私がその翻譯をし終つた時、二人共約一分間の間全く一言も發しませんでした。私は物事の進展が決して彼等の氣に合つてあなかつたのだといふ事はつきり見取る事が出来ました。暫くの間ヒットラーは深い物思に沈んで椅子に坐つて居りました。そして彼は何か心配さうな顔付をして前方を眺めてみました。それからその沈黙を破つて突然彼は外務大臣に對して質問して「さて我々はどうすることになるか」と言つたのであります。次に彼は此の大使が召喚されぬだらうと又此の大使が召喚されぬならぬだらうと、次にとられるべき外務手段について討論し始めました。

そして私は勿論何も外にする事がなかつたのでその室を去りました。私か控室に入つた時、其處に集つて居た幾人かの團員と高級官吏達を見たのであります。彼等は私が英國大使に會つたのを知つてゐたので、私が其の室へ入つた時彼等には戸門したげな顔付をしてゐたものですからそれを見て私は直に二回目のミュンヘンに歸は開かれないうと云ひ待たのみでありました。

私が再びその室を去つた時、彼等の顔に現はれてゐる心配さうな表情からして私の言つた言葉の意味が理解出來たのだかと推測しました。私は今度ほんの只今英國の最後通牒をヒットラーに手交したばかりであると彼等に語つた時、非常に意氣銷沈した沈黙がその室一杯に溢りました。彼等の顔付は一瞬非常に緊張しました。例へば私の前に立つて居つたゲーリングが私の方を振り向いて「若し此の戦争に負けたらその時は神が我々を助け給ふ」と言つた事を今も尙憶へてゐます。ゲツベルスは一人で室の隅に立つて居り、意氣銷沈しないう迄も非常にまじめな表情をして居りました。

問

悄然とした雰圍氣がすべての並居る人達を包んでゐました。そしてそれが總統本部の控室に於ける戦争第一日目の事として最も注目しに値すべきものであると私が考へた所のものでありました。そしてそれは今日も尙私の記憶に残つて居ります。

それに依り貴方はこれらの人達が宣戰布告を予期して居つたといふ印象を受けませんでしたか？

答

いゝえ、私はさういふ印象を受けませんでした。

問

證人、貴方は日本が眞珠灣を攻撃したといふニュースを聞いてリッベントロップがどんな反應を示したかを實際に見る機會がありましたか？

答

いゝえ、私は直接の機會はありませんでした。然し外務大臣は丁度全外務省が驚いたのと同様に眞珠灣のニュースを聞いて全くびつくりしたといふ事を外務省は一般に知つてゐました。私が知つてゐる限りでは、さういふ印象は新聞紙の一員に關するニュースによつて確認されました。新聞紙にはラデオニュースを受持つ部

Ref No #1450

門がありました、そして重要なニュースの場合には當面官吏は直接直に外務大臣に通告すべき命令を受けて居ました。崑珠灣に関する最初のニュースが新聞記のその部門に依つて受信された時、當面官吏はそれは非常に重大なことなので彼の上官即ち新聞記の部長に報告しなければならぬと考へたのでありません。そしてその部長は順番にそれを外務大臣に受渡さうとしたのであります。然し、私が聞いた所では、外務大臣は寧ろ荒々しく彼を引込ませ、そしてそれは確かに何か新聞の作り事か或は注意を喚せしめるための直赤を喰だ、そんな話で新聞記に悩まされたくないと言つたのであります。

其の後崑珠灣に関する第二、第三の新しい報道が受信されたのですが、私はロイターの報道だと思ひます、そしてそれはその部門に依つて受信されたのです。その様を段階に於て新聞記の部長は勇氣を振ひ起して、外務大臣を悩ますといふ命令にも拘らず彼に此のニュースを報告しました。